

塘研究室学会参加報告02

プロジェクトに参加している塘研究室の大学院生2名（大平君と木目澤さん）と兼子さんが、2015年6月12-13日に休暇村裏磐梯で開催された第51回日本節足動物発生学会大会で研究成果を発表しましたので、その様子を簡単に報告します。

学会は二人の外国人研究者による公開講演会から始まりました。Prof. R.G.Beutel（講演タイトル：The Evolution of Megadiversity in Hexapoda (Arthropoda)）は世界的に著名な昆虫の形態学者で、筑波大学菅平高原実験センターの町田龍一郎先生が招聘され、5月に日本に来られました。もうお一人のDr. A. Blanke（講演タイトル：Mouthpart Evolution in Early Hexapoda）は新進気鋭の若手の昆虫の形態学者で、昨年筑波大学菅平高原実験センターに滞在して研究されていました。今回はお二人ともドイツへの帰国直前に裏磐梯に来て頂き、特別講演をして頂きました。

兼子さんと塘研究室の大学院生2名の発表は二日目でした。今回は外国人研究者の参加もあり、英語のプレゼンテーションが推奨されました。兼子さん（発表タイトル：Intraspecific molecular phylogeny of a putative parthenogenetic pseudoscorpion, *Microbisium pygmaeum* (Iocheirata, Neobisiidae)）と木目澤さん（発表タイトル：Molecular phylogeny of *Thrips* genus-group (Thysanoptera: Thripidae) based on nuclear 18SrDNA sequences）はスライドは英語で、プレゼンは日本語でした（兼子さんは質疑への応答は英語でした）。大平君（発表タイトル：Molecular phylogeny of genus *Mundochthonius* (Pseudoscorpiones: Chthoniidae) reveals the existence of multiple cryptic taxa and their complex distribution pattern）は昨年のこの学会大会に続き、今回もプレゼンを英語で行いました。

今回は塘研究室が幹事として開催した大会でした。34名の参加、特別講演2題、学会奨励賞受賞者講演1題、一般講演13題を初日の午後と二日目の午前に分けて行いましたので、それぞれの講演・発表を比較的じっくりと聞いて議論することができました。大学院生にとっては発表の準備、参加者との議論、当日の発表、質疑応答、発表後に頂いたコメントなど、他の学会以上に有意義な学会参加となりました。

